

苫小牧高専創立50周年記念式典/祝賀会/ミニ旅行

定年を迎えそれぞれの第2の人生を歩み出した仲間7名で2012年四国旅行、2013年伊豆半島旅行を行った。今年は母校苫小牧高専創立50周年の記念式典・祝賀会に合わせて同窓会とミニ旅行を実施した。

昨年までの旅行記は同窓会卒業生便りに投稿させて頂いて今回は何もしなくて良いかと思っていたがメンバーから今年も祝賀会やミニ旅行でのエピソードを書く様にとの指令があった。

ご紹介するのは相変わらずの珍道中の恥ずかしい笑い話である。

登場人物

- ◆ 菅原君 (57歳で一念奮起、社会保険労務士の試験を一発で合格。今やその風貌とは似合わない労務士先生。毎年話題豊富。苫小牧在住。)
- ◆ 宇高君 (今も昔もマージャン好きのシャッターマン。主夫修行中。東京から参加。)
- ◆ 加藤君 (補償交渉の名人。四国鉱山の山堀男。定年後のお礼奉公を終えて昨年無事退職。東京から参加。)
- ◆ 植木君 (メンバーきってのマメでテキパキ人間、別の言い方ではせっかちとも言う。定年後は技術コンサルタントで活躍中。山好き。奈良から参加。)
- ◆ 森君 (先月退職、少し健康管理が必要。写真担当。大阪から参加。)
- ◆ 窪田君 (軽音楽・マラソンと多趣味な女性好き。高専時代の吹奏楽部初代部長。NHKの故郷紹介番組ではあの山口百恵のバックバンドをやったのが自慢。平塚から参加。)
- ◆ 大内 (ちょい悪親父からだいぶ悪親父に昇格。旅行記担当。神戸から参加。)

1. スズメの学校とめだかの学校

祝賀会の席上で大島先生にお会いした。

「先生お久しぶりです」「おお、大内こないだの投稿読んだぞ、俺の事書いていたろう」「え、判りますか?」「あたり前だ、他の先生との事も全部誰だかわかるぞ」と言われた。各先生との思い出話は名前を入れずに書いたのだけれども全部おわかりであった。兎に角厳しい先生で、特に実験レポートを通すのには2度も3度も書き直し一苦労した。

「チィチィパッパ、チィパッパ すずめの学校の先生はムチを振り振りチィパッパ」本当に厳しい教えて頂いた。その厳しさが社会に出て初めてありがたい優しさだったと気が付く事になった。(先生達との思い出話は昨年「50周年の思い出」として同窓会卒業生便りに投稿させて頂いた。ご一読願えれば幸いである)

一方50年経った今、懐かしい恩師・同級生と再会して見ると頭の白さ・薄さ、顔のしわなどが追いつき追い越せでまるで「めだかの学校のめだかたち だれが生徒か先生か だれが生徒か先生か みんなで げんきに あそんでる」状態となっていた。

お互い風体は変わっても先生は当時と同じ様に優しく接していただいた。

大島先生は就職指導担当をされていた。私は当時就職先で悩んでいて先生に相談に行った。就職先は尼崎の部品加工をする小さな製造業。他の所を受けるかどうか悩んでいた。

先生は「大内、鶏頭牛後と言う意味を知っているか?この会社、今はそう大きくは無いがこ

れから伸びて行く会社だと思う。完成されたレールの上に行くより自分でレールをひいて走った方が楽しくないか？大きな牛のシッポより小さくても鶏の頭になって頑張った方が楽しいと思うぞ」とのアドバイスを頂き決心した。

会社では高専生の入社が初めてで大卒・高卒と比較されプレッシャーも感じたが自分で選んだ道だから何とかしなければとの思いと、先生が言われた自分でレールをひけるとのお言葉通り会社自体が初めて経験する事業や業務も多く若い仲間達と一緒に試行錯誤しながらレールをひいた。気になる事があれば自分で気に入る会社にすれば良いとの思いで過ごした。

会社は鶏からもう少し大きいダチョウ位に成長しなんとか無事退職する事が出来た。

大島先生にはその思い出と感謝の気持ちをお伝えした。お互いうっすら涙を浮かべ強い握手で再会を誓ってお別れした。

◆ 教訓 1

- 先生の指導と冷酒は後で効く。
- 自分の一言が部下や年下には人生を変える力がある事を良く覚えておこう。

2. 記憶

創立記念式典の朝、長く高専同窓会会長として尽力を捧げ53歳の若さで亡くなった同級生の北澤君のお墓参りに妹さんご夫婦の案内で植木君、宇高君、大内とで行った。

学生時代は北澤君のご両親には大変お世話になった。

北澤家には事あるごとに仲間と訪れマージャンをしてはお母さんの美味しい食事と宿泊までさせていただいた。

お父さんには卒業式の後、苫小牧一のお店で卒業のお祝いをしていただいた。

若く食欲旺盛な我々はまずご飯を食べてからお酒を・・・お父さんは「普通は先に酒を飲んで締めにご飯じゃないか先に食べたら酒が飲めなくなるじゃないか・・・」とニコニコ笑いながら話されていた事を昨日の様に覚えている。

北澤君が亡くなった数日後、菅原君にお願いして一緒に実家を訪れた。息子に先立たれ悲しみの中にご両親にお会いするのは切ない気持で一杯であったが快く招き入れていただき、北澤君の家では見せた事のない学生時代の側面など思い出話をご両親とさせていただいた。

今はご両親も先祖代々のお墓で北澤君と一緒に眠っておられる。

記念すべき50周年の記念式典に北澤君と同席出来ない寂しさがこみ上げて来た。

記念式典の翌日の夕方に帰る飛行機・船の時間の合間に菅原君が支笏湖丸駒温泉に連れて行ってくれる事になった。同乗者は例年の旅行のメンバーの森君・窪田君・大内。

植木君は用事が出来て予定を変更してお昼の便で帰阪。

車が支笏湖通りの第一霊園に差しかかった。

「そうだ、キッコ（北澤君）のお墓参りをして行かないか？」との大内の誘いに

「そうだな俺達は行っていないので是非案内してくれ」と窪田君。

「俺はしばらく行っていないから場所がはっきり覚えていないぞ」と運転中の菅原君。

「大丈夫だ、おととい行ったから覚えている」と大内。

すかさず「行ったのは昨日だべ、俺の車を貸して植木と宇高と昨日行ったつしょ」と菅原君。

「いや、おととい・・・だった・・・昨日だったな・」と大内。

「おい、そんなんでお墓の場所は大丈夫か？」と森君。

大丈夫ではなかった。

「あれ？確かこの辺のはずだったが・・・」と探しているとい筋下の方から菅原君の

「おーい、ここだべやー」の声。

皆がそろった所で墓前にて昨日の記念式典の報告をし合掌。

お墓の場所を確認できたのは菅原君のずいぶん前の記憶であった。

◆ 教訓 2

- 記憶力の低下を自覚しよう・・・自覚した。
- 「チョット前なら覚えちゃいるが 一年前だとチトわからねエなあー
アンタあの娘の何んなのさ 港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカー
ダウン・タウン・ブギウギ・バンド 1975 年のヒット作である。
「ずいぶん前なら覚えちゃいるが チョット前だとチトわからねエなあー
アンタ誰なのさ 」。登場人物最近の心境である。

3. スマートフォン

加藤君はスマートフォンを持ち始めた。

登別での同窓会での出来事。前日の宴会でかなり飲んだメンバーは朝まだ眠りについてた。けたたましい音楽で全員目が覚めた。場所は加藤君が寝ていた布団付近からである。当の本人は朝早く起きて風呂に行った様だ。見るとスマートフォンの目覚ましの音であった。他のメンバーはガラ携で止め方を知らない。数分置きになる目覚ましの音に最初はあきらめていたメンバーも我慢が出来ず加藤君が寝ていた布団にくるんで消音作戦。

◆ 教訓 3

- 耳が遠くなったとはいえ目覚ましの音をあんなに大きくせんでも・・・
- そろそろスマートフォンに変えようかな。

4. 一期生の権威？

記念式典会場では現役在校生の吹奏楽部が式典の演奏のため待機していた。

早めに会場に着いた我々は前の方に陣取った。ふと気が付くと女性好きの窪田君はカメラマンを連れて吹奏楽部のサキソフォンをかまえている女生徒の所に行き何やら話しかけてニコニコ鼻の下を長くして記念写真を撮っている。

席に帰って来て聞いてもいないのに「俺が最初に吹奏楽部を作った、皆も頑張ってくれ」と励まして来たので得意そうに説明。単に口実を付けて写真を撮りに行ったのに違いない。

◆ 教訓 4

- ボケ防止の為に色気をいつまでも持ち続ける事が大事、何事にも積極的に取り組むべし。

5. 菅原先生、携帯電話不明事件

今年もやってくれました。一昨年のメガネ紛失事件、昨年の携帯電話行方不明事件に続きましたまた携帯電話不明事件。

今年6月に大阪で開催された「創立50周年記念西日本支部記念講演会」に樽前会本部を代表し菅原先生におこし頂いた。菅原先生を関西の奥座敷有馬温泉にいつものメンバーでご案内しいつも通りの楽しい会話に包まれ温泉を堪能した。

「今回は旅行記に提供する話題が無くてすまん」との菅原先生のお言葉をいただき大阪で別れた。そして植木君が車で関西空港まで見送った。

夜、そろそろ苫小牧に着いた頃かなと思い携帯電話をしたが「只今電話に出る事が出来ません」の案内。翌日お昼に電話したがまた「只今電話に出る事が出来ません」。

2-3日してから菅原先生からの電話が入った「おおうちー、今回は大丈夫だと安心してたけど最後にまたやってしまったべや。飛行機に乗ってから携帯電話がないのに気づいてよー、 stewardessのお姉ちゃんに探しに行かせてくれと頼んだら出発手続きが終わっているから降りれませんと言われてよー、いやいやまいったべや」「それで先生どうされたのですか？」

「いやーそしたら地上社員がロビーを確認してくれてソファの上のポーチの中にあるのを見つけてくれて、いやー助かった。今日ポーチが郵送で届いて携帯を見たら沢山着信があつて電話してる所だべや」「菅原先生、今度は携帯だけでなくポーチまるまるですか？ポーチは忘れない為に腰につけるのが機能では？」「ツーツー・・・・」

◆ 教訓5

- 後輩の技術者諸君、携帯から離れたらベルトでも振動するようなシステムを作ってもらえないだろうか？ ついでにベルト付け忘れ防止機能も付けて・・・いやいや心臓ペースメーカーのような体内埋め込み式が良いかな？ これから高齢化社会に向けて福祉・介護機器産業にとってここにはそのネタが豊富ですよ。

創立50周年記念誌「学び舎は故郷に似たり」を拝読し50年前を昨日の様に思い出された。

15歳から20歳までの言ってみれば子供から大人へ成長していく段階での5年間いろんな思いの詰まった充実した時間だったと今にして実感している。

これからも良き仲間と沢山の思い出を作りたいものである。

来年は佐渡島旅行を約束し楽しかった50周年記念祝賀会や同窓会の思い出を胸にそれぞれ帰路についた。

以上

平成26年10月22日

旅行記担当 大内



機械1期・2期、電気1期合同同窓会（登別グランドホテル） 2014年10月09日



大島先生を囲んで（機械1期生と窪田君が招き上げた機械工学科の後輩女性とのショット）